

## 「第36回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議」

令和3年3月12日（金）11時30分  
都庁第一本庁舎7階 大会議室

### 【危機管理監】

それでは、第36回になります東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を開始いたします。

本日は、感染症の専門家といたしまして、新型コロナのタスクフォースのメンバーでいらっしゃいます、東京都医師会副会長の猪口先生、そして、東京iCDC専門家ボード座長でいらっしゃいます、賀来先生にご出席をいただいています。また、産業労働局長にはWebにての参加となっております。

それでは、早速でございますが、次第の2番目、「感染状況・医療提供体制の分析」につきまして、合わせて猪口先生からお願いをいたします。

### 【猪口先生】

では、最初にですね、まず2ページをご覧になっていただきたいと思いますけれども、総括コメントとして、4段階であることは、感染状況も医療提供体制も変わりはありませんが、感染の拡大している、しつとある状況と比べましてですね、現段階は、感染が収束しつとある。だけれども、次のことを考えなくてはいけないということを考えますと、コメントが今までのものではちょっとそぐわない部分がございますので、例えば、感染状況の一番上の赤のところでは、「感染の再拡大の危険性が高いと思われる」、それから、医療提供体制のほうでは、一番上の赤のところは、「通常の医療が大きく制限されていると思われる」という部分を作りました。今回はそれを用いておりませんが、次回からですね、状況によってはこのセリフを使わせていただくということになると思います。よろしくお願ひします。

では、最初に「感染状況」からお話をします。

感染状況は、4段階中の一番上、赤で「感染が拡大していると思われる」、新規陽性者数は下げ止まりが見られます。今後、変異株等により急激に感染の再拡大が起こる可能性があります。

一部の繁華街等では1月8日の宣言発出直後よりも、人の流れが増加しており、感染の急拡大が危惧される状況にあります。

では、感染状況についてです。

①-1をご覧ください。

新規陽性者数の7日間平均は、前回の3月3日時点の272人から3月10日時点の262人となり、依然として高い数値の状態が続いております。

モニタリングのいつも会議が木曜日に行われるということで、この数字になっておりますが、実は昨日、新規陽性者が 335 人で、7 日間平均は 273.1、増加比は 101.5、100%を超える状況になってしまいました。

私見であります。再拡大の起こる可能性があります。今一度、感染防止対策を徹底する必要があります。

先にですね、オ) を読んでいただきたいんですが、第 1 波においては、緊急事態宣言解除の 1 週間前に新規陽性者数の増加が見られています。

今回の第 3 波においても同様に、宣言解除前から再度、感染拡大に転じることへの十分な警戒が必要だということ、そして、それからウ) に行きたいと思います。

第 2 波では、ピーク時の 346 人から新規陽性者数が十分に減少せず、約 150 人から 200 人の間で増減を繰り返したのち、急激に感染が再拡大して第 3 波を迎えました。現在はそのレベルよりも下がっておりません。

これまで、都民・事業者等の継続的な努力により、新規陽性者数は減少してきましたが、一部の繁華街等で 1 月 8 日の宣言発出後よりも人の流れが増加しており、感染の急拡大を招くことが危惧されます。

そしてですね、キ) に移りたいと思います。

早期にクラスターを発見し、封じ込め対策を徹底的に行うためには、新規陽性者数をできる限り減少させる必要があります。

都は、保健所と連携して積極的疫学調査を充実させ、クラスターを早期に探知する対策を検討しています。また、感染者が多数発生している地域、施設等への定期的なスクリーニング検査の試行を開始します。

こうした検査がですね、大事な武器になりますので、この使い方を一生懸命考えているところであります。

ク) です。

国内では、英国や南アフリカ共和国等で流行している変異ウイルスが確認されており、都内では、これまでに合計 24 件の変異株が検出されております。今後、感染力の強い変異株による感染が急速に拡大するリスクがあります。

ケ) です。

変異株に感染した者、または感染が疑われる者が発生した場合は、当該濃厚接触者のみならず、関係者に対する積極的な調査を行うなど、接触者の探索のための調査及び感染源の推定のための調査を徹底する必要があります。

サ) です。

ワクチン接種の準備を進めていますが、そのためには多くの医療人材の確保が必要となります。ワクチン接種に必要な医療人材を配置するためにも、新規陽性者数をできるだけ減少させ、医療従事者の負担を減らすことが必要です。

ス) です。

ワクチン接種は、感染しても重症化しにくい効果が期待できますが、現時点では、感染そのものを防ぐ効果については明らかではありません。引き続き、ワクチン以外の感染予防策が重要となります。

①-2です。

新規陽性者を年代別に見ますと、20代及び60代の割合が上昇し、70代以上の割合は20%でした。

①-3です。

新規陽性者に占める65歳以上の高齢者は418人と減少しましたが、依然として高い水準で推移しております。

コメントのア)です。

新規陽性者数の減少傾向が鈍化する中、病院や高齢者施設でクラスターが複数発生しており、重症化リスクの高い65歳以上の高齢者層への感染が続いています。

①-5です。

今週の濃厚接触者における感染経路別の割合は、同居する人からの感染が44.3%と最も多かったです。次いで施設及び通所介護の施設での感染は35.6%、職場での感染が6.5%でした。

ア)です。

感染経路別に見ると、前週と比べ、会食が3.8%から4.5%へ、接待を伴う飲食は0.9%から1.8%へ増加しています。

感染リスクが高いと考えられる会食の際、会話時にはマスクを着用するとともに、人数は、同居家族以外では、いつも近くにいる4人まで、それから、他のグループとの間のテーブルを一定以上離す。大体1メートルから2メートルぐらいですね。

これは、国の緊急事態宣言解除後の地域におけるリバウンド防止策についての提言で挙げられております。ぜひ皆さんに遵守していただきたいと思います。

ウ)です。

3月から4月にかけて、花見、歓送迎会や卒業旅行等が行われることによって、これまで減少した新規陽性者数が大幅に増加することが危惧されます。本当にそうなってしまうと怖いので、ぜひ皆さんに考えていただきたいと思います。

エ)です。

院内感染が多発し、新規の患者受け入れを停止せざるを得ず、周辺の救急病院への負担が増大し、救急医療を含む、通常の医療提供体制に影響を与えております。

キ)です。

今週は学校、保育園、職場、会食を通じての感染例が報告されております。昼食後の団らん、それから業務中の休憩、こうした落とし穴があります。マスクの取り外しは最低限にとどめ、引き続き、感染防止対策を徹底する必要があります。

①-6です。

今週の新規陽性者 1,757 人のうち、無症状の陽性者が 354 人、割合は 20.1%でした。

イ) です。

感染多数地域における医療機関、高齢者施設等の従業員等の検査の集中的実施ですね。これは、高齢者から守るという意味で守りの検査なんて言っておりますけれども、感染状況に応じたスクリーニングの実施等の取り組みを、葛飾区で試行いたします。

①-7 です。

今週の保健所別届出数は、ご覧の通りでほぼ横ばいです。

江戸川、それから多摩小平、新宿区、足立、そして、みなとでございました。

ということで、新規陽性者に関しては、コメント、最後のア) ですね。

新規陽性者数が減少傾向にある中、感染再拡大や変異株の影響を最小限にするため、都は保健所と連携して積極的疫学調査を実施し、クラスターを早期に探知する対策を検討しています。

これは、先ほどの守りと比べますとですね、感染拡大を積極的に抑えていこうということで、いわば攻めの検査になると思います。

では、②です。

#7119 の 7 日間平均は、前回の 55.0 件から 3 月 10 日時点で 57.7 件と横ばいでした。

③-1 です。

接触歴等不明者は、7 日間平均で前回の 134 人から 125 人と横ばいでありました。

③-2 です。

新規陽性者における接触歴等不明者の増加比が 100%を超えることは、感染拡大の指標となります。3 月 10 日時点の増加比は 93%となり、高い水準で推移しております。

③-3 です。

20 代から 40 代において、接触歴等不明者の割合が 60%を超えており、依然として多くの新規陽性者数が報告される中で、保健所における積極的疫学調査による接触歴の把握が難しい状況が続いております。

その結果として、接触歴等不明者数及びその割合も高い値で推移している可能性があります。ということで、「感染状況」は以上であります。

続きまして、「医療提供体制」についてです。

医療提供体制もですね、4 段階の一番上、赤、「体制が逼迫していると思われる」ということです。

病院の体制が十分に確保できないまま、感染が再拡大する可能性があります。

感染の再拡大を想定して、病床、宿泊療養及び自宅療養の体制確保のための戦略を早急に検討する必要があります。

今、確かに入院患者さんとか、重症の患者さん、減ってきてはいるんですけども、この体制を維持しなくてはいけないということは非常に辛い。通常の医療をかなり圧迫しているということでもあります。

では、④「検査の陽性率」です。

7日間平均のPCR検査等の陽性率は、前回の3.2%から3月10日時点の3.3%と、あまり変化がありませんでした。

イ)です。

現在、都は通常時37,000件、それから最大稼働時68,000件、1日あたりにPCR等の検査能力を確保しております。感染を抑え込むために、この検査能力を有効に活用して、濃厚接触者等の積極的疫学調査の充実、陽性率の高い特定の地域や、対象におけるPCR検査等の受検を推進する必要があります。これは、もう先ほど来言っている、攻めと守りの検査であります。

⑤です。

東京ルールの適用件数の7日間平均は、前回の70.7件から3月10日時点で61.7件に減少しましたが、依然として高い値が続いております。

救急車が患者を搬送するための、現場到着から病院到着までの活動時間は、過去の水準と比べ、延伸しております。長くなっております。二次救急医療機関や救急救命センターでの救急受入れ体制への影響が長期化しております。

「入院患者数」です。⑥-1です。

3月10日時点での入院患者数は前回の1,548人から1,332人（正しくは1,333人）に減少しましたが、依然として高い水準であります。

イ)です。

従来株と比較して感染力が高い変異株が問題となっており、病院の準備が整わないまま、感染が再拡大する危険性があります。

現在の医療提供体制の状況では、変異株によるさらに急速な再拡大には、対応することは、本当に大変になる可能性があります。

ウ)です。

都は、入院重点医療機関等の協力により、重症用病床332床、それから中等症等用病床約4,716床、合計で5,048床の病床確保をしております。

変異株により再拡大が起こる可能性を想定して、小児病床を含めた病床、それから宿泊療養及び自宅療養の体制確保のための戦略を早急に検討する必要があります。

⑥-2です。

入院患者の年代別割合は、60代以上が高い割合で推移しており、全体の約7割を占めております。

⑥-3です。

検査陽性者の全療養者数は、前回の2,979人から減少したものの、3月10日時点で2,651人と、高い値で推移しています。

内訳は、入院が1,333人、宿泊療養者は368人、自宅療養者522人、調整中が428人でした。

オ) です。

自宅療養者の容態の変化を早期に把握するため、パルスオキシメーターを区市保健所に7,240台配布するとともに、フォローアップセンターから自宅療養者宅への配送も開始し、1,070台配布いたしました。また、自宅療養者向けハンドブックの配布、それから食料品の配送を行うなど、フォローアップ体制の質的な充実も図っております。

アンケートをとりますとですね、このフォローアップセンターの評判がかなり良いですね、感謝されている方が多いです。よかったという話です。

では、⑦に参ります。

「重症患者数」です。重症患者数は、前回の52人から3月10日時点で第2波のピーク時と同数の39人でした。重症患者数は減少していますが、新たな発生も続いています。

今週新たに人工呼吸器を装着した患者さんは13人、人工呼吸器から離脱した患者さんが13人、そして人工呼吸器使用中に死亡された患者さんが12人ということであります。数は減りつつありますけれども、新たに重症になる患者さんも非常に多いんだということはご理解いただきたいと思えます。

コメントのウ) です。

都は、重症患者及び重症患者に準ずる患者の一部が使用する病床を、重症用病床として、現在約330床（正しくは332床）を確保しています。国の指標及び目安における重症のための病床は、重症病床を含め合計約1,024床確保しています。

そして、ク) になります。

変異株による再拡大をする可能性を想定して、通常の医療との両立を図りながら、重症用病床を確保する戦略を早急に検討する必要があります。

⑦-2です。

70代の重症患者数が最も多かったです。性別では男性29人、女性10人でした。

コメントのウ) です。

死亡者数は前週の121人から今週84人となっており、3月10日時点での累計の死亡者数は1,518人となりました。

今週の死亡者のうち70代以上の死亡者が77人でありました。

⑦-3です。

新規重症者数の7日間平均は、3月3日時点で2.9人、3月10日時点の1.9人となっております。ということで、かなり出入りがあるってというか、新規重症者さんはやっぱり、かなり多いんだということでもあります。

まとめますとですね、新規陽性者数は下がってきましたけれども、下げ止まりの状態であります。

今後、変異株により、急激に再拡大する可能性があります。そのためですね、病院は、再拡大に準備する必要があるんですけども、その病院の準備が整わないままですね、感染が再拡大する可能性がありますので、あと1週間、緊急事態宣言があります。何とか頑張って

下げただけだと思えます。

以上であります。

#### 【危機管理監】

ありがとうございました。

それでは、意見交換に移ります。

まず、ただいま猪口先生からご説明のありましたモニタリングの分析の内容につきまして、ご質問等ある方いらっしゃいましたら、お願いいたします。

それでは、都の対応ということで、この場でご報告のある方いらっしゃいますか。

よろしければ、まとめとしてのコメントを賀来先生から、合わせて変異株スクリーニング、再拡大防止策等もお願いいたします。

#### 【賀来先生】

賀来でございます。

今、猪口先生から報告がございましたように、感染状況、医療提供体制ともに厳しい状況が続いています。

特に、感染の再拡大をいかに警戒して、継続して感染予防対策を徹底することが重要だと思われまます。

続きまして、変異株についてであります。資料がありますのでご覧ください。

昨年の12月から東京iCDCのゲノム解析検討チームを立ち上げまして、国と連携して健康安全研究センターと民間検査機関で、変異株の有無を確認するスクリーニング検査を実施しています。

都内全陽性者分の約10%で実施しています。現在、国では5%から10%で検査を行うことを要請しており、この点はある程度達しているわけでありまます。

東京都では、現時点で2,700件を超えるスクリーニング検査について実施しています。これまで国では、ゲノム解析による確定検査に基づいて公表してきましたが、今後は、スクリーニング検査で判明したものを、陽性例として提示するというので、12例が先日公表されました。

今後、さらに検査ができるように、今、体制づくりを進めているところであります。

また、変異株が次第に多くなるとワクチン接種によっても効果が出ない可能性もあるということで、やはり今後、感染の拡大を、最大限抑えていく。感染者数を減らした状況の中で、ワクチン接種が行われることが望ましいと思われまます。

続きまして、感染再拡大防止策について、提言させていただきたいと思いまます。

今般の陽性者数の下げ止まりを受けて、東京都に対する緊急事態宣言は、3月21日に延長されました。

諮問委員会の尾身先生からは、首都圏における感染再拡大防止策について見解が示され、

基本的対処方針等諮問委員会で7つの提言が行われています。

一体感のあるメッセージ、モニタリング検査、そして、見えにくいクラスターの探知、変異株への対応、感染拡大の予兆が見られた時の対応、高齢者施設等に対する定期的検査、集中的な検査、また、医療提供体制・公衆衛生体制の強化という7項目であります。

次に、これからの取り組みについてお示ししたいと思います。

第一に、戦略的検査を実施していくということであります。これまで、東京都は検査受け入れ能力を向上し、検査機会を確保するということとともに、高齢者、障害者施設での検査を推進して参りました。

今後はさらに、感染再拡大の防止に向けて、これらの取り組みに加えて、国や保健所と連携し、戦略的な検査を実施していく必要があるかと思われまます。

具体的な戦略的検査の方向性については、重症化リスクのある方が多数おられる場所・集団である医療機関や高齢者施設でのクラスター発生予防のための定期的な検査のスクリーニングをしっかりと行っていく体制を整えていくことが重要です。

次に、感染が起りやすいと考えられている繁華街や、特定の地域などで、モニタリング検査をしっかりと実施して、早期探知、発生の状況を早く取り組んでいくという戦略を実施していくように対応していただきたいと思います。

いわゆる予兆となるクラスターをいかに迅速にとらえて、感染拡大を抑えていくかということになると思います。

次に、変異株の監視体制の強化であります。現在、東京都は約10%の検体のスクリーニング検査を実施していますが、これをできるだけ増やしていく。まだ課題はありますが、できるだけ民間検査機関でのスクリーニング検査を拡大できるように努力していく。

さらに保健所から集団感染等の検体を積極的に回収するスキームを確立して、4月までに累計4,000件を目指して、検査規模を拡大していくということで、変異株への監視体制の強化を、徹底的に行っていくということを提言したいと思います。

最後に、保健所の体制強化・積極的疫学調査の強化ということであります。これまで、保健所に対する都職員、トレーサーの配置、入院調整などに対する支援、院内感染などが発生した場合に、感染対策チームの派遣など、様々な取組を行って参りました。

今後は特に自宅療養の方が、容態が急変した時に対応するなど療養者支援体制の一層の強化を図っていくことに加え、集団感染が発生した時にスムーズなリスク評価を行い、報告体制を構築していくことを提言いたします。

また、隠れた感染源、見えない感染源を早期に探知するための行動歴調査などの徹底、そして、地域で感染の拡大が起りつつあるという予兆が見られたときに、積極的に検査を行っていくという取組の強化を提言いたしたいと思います。

以上です。

## 【危機管理監】

ありがとうございました。

ただいまご説明のありました事項について、ご質問等ございますか。

よろしければ、会のまとめといたしまして、知事からお願いいたします。

## 【都知事】

今日も、猪口先生、ありがとうございます。

また、賀来先生には引き続き、何度もお越しいただいております。かつ、提言をいただいてありがとうございます。

今回のモニタリングの分析で、先生方からは、引き続き「感染状況」、「医療提供体制」とも最高レベルで、赤というコメントいただいております。

感染状況、医療提供体制につきましては、まず、新規陽性者数は下げ止まり、今後、変異株などによって、再拡大が起こる可能性に厳重な警戒が必要と、分析いただきました。

それから、病院の体制が十分に確保できないまま感染が再拡大する危険性についてのご指摘ございました。

今回、総括コメントの中身も変えていただくということで、現状、また、これから近い将来の、このウォーニングっていうか、コメントの仕方も変えていただいて、感染経路については、家庭内感染が最多になっており、前週と比べて、会食、接待を伴う飲食の割合が増えているということ。

重症者の患者数は、10日の時点ですが、39人と減少が続いておりますが、依然として高く、約6割が70代以上であること。

今週報告された死亡者数が84人で、その9割の77人が70代以上の高齢者であると、累計の死亡者数が1,500人、ご冥福をお祈り申し上げます。

以上、ご指摘を踏まえまして、皆様方へのお願いでございます。

緊急事態宣言が再度延長されても、新規陽性者数が下げ止まっている状況、大変厳しい状況は続いていること。

何としても感染拡大の抑制をし、感染の再拡大を防がなければならないと、ここで感染防止対策を徹底的にやり切ることが感染収束に大きな意味を持つということでもあります。

今日もモニタリングの矢印、ベクトルは、横ばいか、右下がりではありますが、ずっとつらつらと思いきすと、10月とか11月の頃、ずっと200台、300台が続いたあと、ぽーんと跳ねていくんですよね。

こういったことを繰り返さないためにも、今、改めて外出自粛や会食の自粛をお願いしているのは、そのことを懸念してのことでもあります。

昼、夜、平日、休日、トコトン、ステイホームをお願いをし、また原点が一番重要でありますので、基本的な対策を徹底すること。これを改めてお願いいたします。

そして、3密の回避、手洗い、消毒、マスク、もう何度も何度も同じことで恐縮ござい

ますが、改めてのお願いです。

そして、高齢者、基礎疾患をお持ちの方への感染を防ぐ、そのために家庭内、職場、施設内における感染予防策の徹底をお願いいたします。

事業者の皆様方にも、改めてトコトン、テレワークの徹底をお願いいたします。出勤者数の抑制にご協力をお願いいたしたく存じます。

飲食店の皆様方には、営業時間の短縮に引き続きご協力いただいております。ガイドラインの遵守も改めてお願いをいたします。

大変なご苦勞をおかけしておりますけれども、感染の拡大を何としても抑え込むために、ぜひともご協力をいただきたいと思っております。

そして、東京 iCDC の賀来先生から、変異株のスクリーニングの実施状況についてのご報告、ありがとうございました。

また、感染再拡大の防止策につきましてのご提言をしっかりと受けとめ、また、戦略的な検査を始め再拡大の防止に向けました取組を進めて参ります。

国、そして保健所とも連携しながら、リバウンドを防ぐための取組を進めていきたいと考えております。

これまでの都民・事業者の皆様方のご尽力には、改めて感謝を申し上げます。

そして、先生方から、「これまでの努力が活かされるよう、今一度徹底的に感染防止対策を実行することが必要」とのコメントを、重く受け止めたいと思っておりますし、このことをまた都民・事業者の皆様方と共有できればと思っております。

感染収束のために、今、集中して対策を徹底的に、トコトンやっていくことが重要でございます。都民・事業者の皆様のご理解、ご協力を、引き続きよろしくをお願いをいたします。

また、医療現場の皆様方のご苦勞に感謝を申し上げまして、また、医療提供体制もさらに改善しつつありますが、これも医療従事者の皆様方のご協力あつてのことです。

引き続きよろしくをお願いいたします。ありがとうございました。

#### 【危機管理監】

ありがとうございました。

以上をもちまして、第36回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を終了いたします。